

平成29年度 相談支援連絡会 活動実績報告

1. 明石市の相談支援連絡会について

相談支援連絡会の内容をリニューアルするにあたって、数名の相談支援専門員に話を聞いたところ、「制度を考える余裕はない」「今、目の前にあるサービスで支援を考えるしかない」、また、「相談支援連絡会」については「忙しい時間を割いてまで行くかな」と消極的な意見が聞かれました。しかし一方では「自分は一人職場で、いつもこれでいいのか不安がある」「他の相談員と話がしたい」との思いも聞くことができました。

そこで、まずは「相談支援相談員に必要とされる場作り」をしていくことにしました。「相談支援専門員の自助グループ」の形をとり、「相談支援専門員が元気になる事」、「相談支援専門員同士の横の繋がりを作る事」を大切にしながら、この仲間意識を土台に、「相談支援専門員の語りから、地域課題を抽出していく事」を目指してきました。

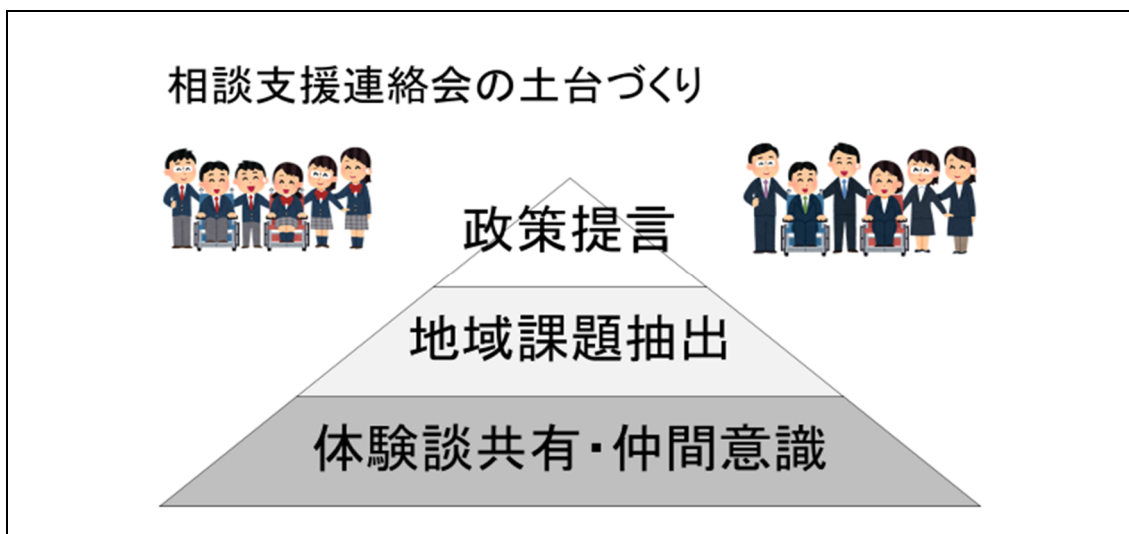
2. 相談支援連絡会の目標

<長期目標>

- ・「今ある制度やサービスだけでは解決できない問題」「くりかえし起こっている、似たような問題」を共有し、明石市地域自立支援協議会へ提言していく。
- ・「個別の課題」から「地域の課題」を抽出する。

<中期～短期目標>

- ・相談支援専門員のセルフヘルプグループを目指す。



相談支援連絡会の展開



2. 相談支援連絡会コアメンバー

うみのほしウエスト相談支援事業所	石田 育大
相談支援事業所 そよかぜ（明石市立あおぞら園）	向井 美貴
相談支援事業所 居場所	土屋 直美
（事務局）明石市基幹相談支援センター	柴田 愛
（事務局）明石市基幹相談支援センター	石田 香緒里

3. 相談支援連絡会の基本プログラム

開催日時：毎月第4水曜日 10：00～11：30

内 容：10：00～10：30 社会資源紹介

10：30～11：30 グループセッション

（11：30～12：00）コアメンバーと事務局で振り返り

【社会資源紹介】 地域にある事業所の紹介を行い、支援にいかしてもらっています。紹介している事業所は新規立ち上げ事業所、定員に空きがある事業所、当事者団体等、多岐にわたります。紹介が終わった後を名刺交換の時間としており、その際に早速、相談支援専門員が事業所の職員に相談をする姿も見られています。

【グループセッション】 日頃思っている事や、感じている事、みんなに聞いてみたい事、なんでも話してよい時間です。ここでの発言の積み重ねが「共通の課題」の種となります。

【振り返り】 コアメンバーと事務局で、振り返りを行い、課題の整理を行っています。

4. 活動実績

▼プレミーティング 平成 29 年 8 月 23 日（水）（参加者：17 事業所 19 名）

【相談支援連絡会リニューアルの趣旨説明】

【グループセッション】（今回の参加動機や、相談支援連絡会に期待していること）

- ・他の相談員がどんなふうに業務をしているか知りたい
- ・ひとり職場なので他の相談支援専門員と繋がりをもちたい。
- ・業務でわからないことを尋ねたり、悩んでいる事を話したい。



▼第 1 回 平成 29 年 9 月 27 日（水）（参加者：15 事業所 18 名）

【社会資源紹介】

- ・アイ・ワークス西明石（就労移行支援事業所）
- ・いこい（就労継続支援 B 型事業所）
- ・リーフあかし（就労継続支援 B 型事業所）

【グループセッション】

- ・利用者と面談をしたいが、連絡が取れなくなった際の対応について情報交換
- ・障がい児サービスの支給量について（標準支給量を示してほしい/支給決定量が多いのではないかな）
- ・短期入所について（空きがある施設を探すのが大変）

▼第 2 回 平成 29 年 10 月 25 日（水）（参加者：12 事業所 13 名）

【社会資源紹介】

- ・おひさん（放課後等デイサービス）

【グループセッション】

- ・要支援に該当する視覚障害者の通院について情報提供
- ・介護保険の認定調査の結果が出るのが遅いという意見
- ・各相談員がどのようなケースを主に持っているのか情報交換
- ・AD/HD の子どもの受け入れ先があるかについての情報交換
- ・サービス担当者会議をどのように行っているのかの情報交換（電話で済ましているのか、事業所に出向いていっているのか）

▼第 3 回 平成 29 年 11 月 22 日（水）（参加者:11 事業所 14 名）

【社会資源紹介】

- ・明石市身体障害者福祉協会
- ・にじの空（生活介護/就労継続支援 B 型）

【グループセッション】

- ・相談員としてどこまで調整を行うのがよいのか意見交換（居宅のサービスで、日時の変更のみで時間数に影響がない場合は本人と事業所とで調整しても良いのではないかな）
- ・ケース数について情報交換、他職種との連携で困った事はないか意見交換

- ・サービス担当者会議をどのように行っているのか意見交換（内容に変わりがなくても実施しているのか）

- ・サービス等利用計画案や本計画を事業所に渡しているか、個別支援計画を事業所からもらっているか情報交換

▼第4回 平成 29 年 12 月 27 日（水）（参加者：6 事業所 10 名）

【社会資源紹介】

- ・サポートセンター双葉（生活介護）
- ・訪問看護ステーションそらまめ（訪問看護）

【グループセッション】

＜これまでのグループセッションの振り返り＞

- ・支援対象がどの障害であるのか、者か児であるのか等によって相談支援のやり方、動き方が違う事がわかった。

- ・相談支援専門員として他の人も同じような悩みを抱えている事がわかった。

- ・相談支援の実務について他の相談支援専門員に確認できたのがよかった。

- ・社会資源紹介で色々な事業所を知る事ができたのがよかった。

＜今後の枠組みについて＞

- ・時々を対象別の小グループで話しがしたい。

- ・様々な場面に応じた具体的な支援方法を知りたい。



▼第5回 平成 30 年 1 月 24 日（水）（参加者：10 事業所 11 名）

【社会資源紹介】

- ・キッズ☆スター（放課後等デイサービス）
- ・博由園（生活介護/タイムケア）

【グループセッション】

- ・モニタリングについての意見交換（本人の生活が安定していたら、そんなにモニタリングは必要ないのでは、との意見に対して）

- ・サービス担当者会議について、重要性はわかっているが実際に開催する事が難しいとの悩み、意見交換

- ・移動支援の問題について意見交換。

- ・ここでの話し合いの結果を運営会議に報告する仕組みがあってほしいとの意見。

▼第6回 平成 30 年 2 月 28 日（水）（参加者：8 事業所 10 名）

【社会資源紹介】

- ・おかもと訪問看護ステーション（訪問看護）
- ・Open Goal（生活介護）
- ・きっちん そら（就労継続支援 B 型）

【グループセッション】

☆児童グループ☆（意見）



- ・4月変更の支給量変更作業が多い。支給量の明確な基準がほしい。

☆精神グループ☆（意見）

- ・業務としてどこまで関わればいいのか。利用者が事業所と直接やり取りしてほしいことや、それは事業所の仕事ではないのか？と思うことがある。
- ・精神障がい者の社会資源が少ない。利用者に合う社会資源が見つからない。

▼第7回 平成30年3月13日（水）（参加者：12事業所 15名）

【説明会】

- ・明石市総合支援センターについて

【グループセッション】（小グループにて開催）

☆精神グループ☆（意見）

- ・ヘルパーをどんどん変える人の事業所調整が難しい。精神障害者はヘルパーをキャンセルする事が多いが、それに対して理解がある事業所とそうでない事業所があり調整が難しい。精神の手帳を持っていてゴミ屋敷に住んでいる人がいる。ゴミを捨てたいが、本人が捨てるのを嫌がり、いつまでたってもゴミ屋敷のままの人がいる。
- ・同行援護の事業所が少ない。頼みやすいヘルパー事業所の情報共有を行いたい。

☆児童グループ☆（意見）

- ・保護者対応が難しい。明確な給付量の基準がない分余計に難しい。

☆その他グループ☆（意見）

- ・急な不定期の移動支援を受けてくれる事業所が少ない。夜間を受けてくれる所も少ない。重度訪問介護、同行援護で入ってくれる事業所が少ない。



5. 平成29年度の相談支援連絡会で報告された地域課題

平成29年度のグループセッションで繰り返し出てきている話題の1つは、ヘルパー調整の難しさでした。

「同行援護」「重度訪問介護」「移動支援」とサービスとしては存在していますが、いざそのサービスを使おうと思っても受けてくれる事業所が少なく、調整を行っている相談支援専門員がいつも困っている、という現状であることがわかりました。

「同行援護」については、同行援護に対応していると事業所一覧にでている事業所に、依頼をかけたら、「現在、同行援護に対応できる従事者がいない」との返答が返ってくる事が多く、相談支援専門員同士の情報網で事業所を探した結果、明石市の利用者ではあるが、大阪の事業所を利用してもらっている、との話がありました。

「重度訪問介護」については、報酬単価の問題からか引き受けてくれる事業所が少ない、また「重度訪問介護」の利用者は、朝、夜関係なく支援が必要ですが、時間帯によっては、さらに引き受けてくれる事業所が少ない、との話がありました。

「移動支援」については、保護者が高齢になり事業所までの送迎が出来なくなった時に移動支援が利用できたら、本人が通い入れた事業所に通い続けることができる、また、不

定期や突発的な利用を事業所が引き受けてくれるようになればより利用者のニーズに添った支援ができる、との話しがありました。

人材不足の課題については、すでに平成 28 年度に「くらし部会」が「深刻化している障害福祉現場における人材の確保と育成の諸問題」と題して問題提起していますが、相談支援連絡会からも、地域課題として報告いたします。